「終末論はなぜ重要なのか」

1. はじめに

(1) 第 10 回再臨待望聖会が開催される（11/2 大阪、11/4 東京、11/6 石川）

①字義通りの解釈で終末論を論じる。

②メシアニックジューの講師を中心に招く。

＊今年の講師は、ラスベガス在住のリチャード・ヒル博士である。

③再臨待望聖会の 3 つの祈り

＊日本の霊的覚醒、ユダヤ人の救い、メシアの再臨

(2) 再臨待望聖会を開催する目的

①理念は行動を規定する（理解した内容によって行動が決まる）。

②終末論の理解が、クリスチャン生活を規定する。

③小さな過ちが、大きな神学上の誤解に至る。

④神学上の誤解があると、教会は聖書的在り方から逸脱する。

＊ドミノ現象が起こる。

＊教会生活が非聖書的なものになる。

＊この世での生活が非聖書的なものになる。

⑤御国とは、メシア再臨の後に地上に成就する千年王国である。

⑥終末論は、教会論を規定する。

(3) ここで取り上げるのは、「kingdom now」 theology である。

①「御国はすでに来ている」「今が御国の時代である」という神学である。

②これは、教会と御国を関連付ける神学である。

③また、教会は地上に御国を確立するために召されているという神学である。

④この神学は危険なものであるが、近年影響力を増している。

(4) アウトライン

①教会の存在目的とは何か

②「kingdom now」 theology はなぜ危険なのか

終末論の重要性について学ぶ。

Ⅰ．教会の存在目的とは何か

1. 神の栄光を表わすこと

(1) エペ 3：20～21

Eph 3:20　どうか、私たちのうちに働く御力によって、私たちが願うところ、思うところのすべてをはるかに超えて行うことのできる方に、
Eph 3:21　教会において、またキリスト・イエスにあって、栄光が、世々限りなく、とこしえまでもありますように。アーメン。

①ユダヤ人と異邦人を「ひとりの人」にし、ともに祝福するのは神の御業である。
②神は、私たちの思いをはるかに超えて働かれる。
③教会には神の栄光が宿っている。

2. みからだに連なる人たちを霊的に建て上げること

(1) エペ 4：11～16

Eph 4:11　こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。
Eph 4:12　それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。
Eph 4:13　私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。
Eph 4:14　こうして、私たちはもはや子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、
Eph 4:15　むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。
Eph 4:16　キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります。

①神は教会に、御霊の賜物をお与えになった。
②その目的は、信徒の成長と一致である。
③教会は、愛のうちに建てられる。

3. 大宣教命令を成就すること

(1) マコ 16：15

Mar 16:15　それから、イエスは彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。

(2) マタ 28：18～20

Mat 28:18　イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

Mat 28:19　ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、
Mat 28:20　わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

①大宣教命令の根拠は、復活した御子イエスの権威である。
②大宣教命令のゴールは、「あらゆる国の人々を弟子とする」ということである。
＊出て行って人々に福音を語る。
＊父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授ける。
＊イエスが教えたすべてのことを守るように教える。

Ⅱ.「kingdom now」 theology はなぜ危険なのか

1. この神学は、教会の存在目的を再定義する。

(1) 教会自体は、なんらかの意味で御国そのものである。
①それゆえ、教会はこの世を支配する権利と権威を神から与えられている。
②地上に神の国を確立することが、教会の使命である。

(2) 教会は、政治権力を追求するようになる。
①武力による支配を求めるようになる（歴史はそう教えている）。
②これは、神が計画された教会の姿ではない。
＊教会存在の 3 つの目的から逸脱している。

(3) 教会が堕落した文化に良い影響を与えること自体は、素晴らしいことである。
①それは、宣教の文脈として役に立つ。
②しかし、教会が今の時代を御国の権威をもって統治するということではない。
③教会は、再臨後に地上に建てられる御国を待ち望むように召されている。
④再臨のメシアは、鉄の杖で御国を統治される。
③詩 2：9
Psa 2:9　あなたは　鉄の杖で彼らを牧し／陶器師が器を砕くように粉々にする。』」
④黙 12：5
Rev 12:5　女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもってすべての国々の民を牧することになっていた。その子は神のみもとに、その御座に引き上げられた。

2. この神学がもたらす 3 つの危険性

(1) 教会は、自分が寄留者であり、巡礼者であることを忘れる。
①1 ペテ 1：21

1Pe 2:11　愛する者たち、私は勧めます。あなたがたは旅人、寄留者なのですから、たましいに戦いを挑む肉の欲を避けなさい。

②ヘブ 11：13

Heb 11:13　これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。

(2) 教会は、本来の使命から関心が逸れる。

①本来の使命とは、大宣教命令である。

②NAR（新使徒的宗教改革）の中心的なビジョンは、「7 つの山」の制覇である。

＊宗教界、家庭、教育界、政界、マスメディア、芸術界、エンターテインメントの世界、ビジネス界

③神は、本来の使命に忠実であるという範囲において、教会に力を与える。

④サタンは、本来の使命から逸脱させることによって、教会を無力化する。

⑤主イエスがなさることを教会がしようとするのは、時間の無駄である。

(3) 教会は、福音を伝えることよりも社会改革に力を注ぐようになる。

①大宣教命令よりも、社会福音に関心が向かう。

＊ガン撲滅、貧困と飢餓の撲滅、社会正義の確立

②個人の魂の救いよりも、社会全体の救いが強調される。

③このアプローチは、教会の使命に関する優先順位を混乱させる。

(ILL) リック・ウォレン　『人生を導く５つの目的』

＊「リック・ウォレンやその他の神学者たち教えでは、『great commission』は実際的には『great omission』になっている。

④今が御国の時代であるという神学は、教会を弱体化させる教えである。

結論

1. 私たちは、メシアの再臨を待ち望む。

(1) 携挙、大患難時代、再臨と続く。

(2) 地上の千年王国を設立するのは、メシアの役割である。

2. その間私たちは、教会に与えられている使命を果たすことに専念する。

(1) 神の栄光を表わすこと

(2) みからだに連なる人たちを霊的に建て上げること

(3) 大宣教命令を成就すること